

平成 2 1 年度 実施事業	<b>事務事業名</b> 市民生涯学習推進講座（婦人短期大学）
-------------------	---------------------------------

区分	番号	名 称
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち
節	1	生涯にわたって学び続ける社会をつくる
施策	1	市民の主体的な学習の推進
小分類	1	生涯学習活動の促進
主要な施策	1	ライフステージ（生涯学習各期）に対応した多様な学習機会の充実
事務事業番号	002	事務事業コード 51111002 事業開始年度 昭和 5 6 年度 事業終了年度 平成 - 年度

会計種別	一般会計	予算書上の事務事業名	市民生涯学習推進講座（婦人短期大学）
------	------	------------	--------------------

部 名	教育部	グループ名	社会教育G
-----	-----	-------	-------

統合前または名称変更前の事業名	
-----------------	--

事務事業の目的と成果

対象	<p style="background-color: #ffffcc; margin: 0;">（何を対象にまたは誰を対象にした事務事業なのかを具体的に記載ください）</p> 登別市に居住する成人女性
手 段 （ 事 業 の 内 容 ・ 活 動）	<p style="background-color: #ffffcc; margin: 0;">（目指す姿を実現するためにどのような手法で行うのか、事業の内容を具体的に記載ください）</p> 1年生、2年生の2学年性とし、卒業したものが継続して受講する場合は、聴講生とする。  教養コース（必修） ・今日的課題、社会事情等に関する学習  選択コース（自由選択、うち1コース必修）から関心のある分野のものを選んで学習する。 ・くらしの賢者コース（生活・文化） ・のぼりべつ物知りコース、（郷土） ・はつらつ元気コース（健康）
目 指 す 姿 （ 成 果）	<p style="background-color: #ffffcc; margin: 0;">（事務事業を実施することでどのような状態にしたいのか具体的に記載ください）</p> 成人女性の生きがいのある人生観の確立と、時代にニーズに応じた教養を身に付け、地域社会に貢献する。
根 拠 法 令 等	<p style="background-color: #ffffcc; margin: 0;">（事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称をすべて記載ください）</p> 登別市婦人短期大学設置要項

指標の推移

区 分		単位	区分	21年度 実 績	22年度 目 標	23年度 目 標	24年度 目 標	25年度 目 標
成果 指標	受講者数（年間）	人	目標値	1,000	700	700	700	700
			実績値	818				
	学習回数（年間）	回	目標値	22	22	22	22	22
			実績値	22				

事業費の推移

区 分			単位	21年度 決算	22年度 当初予算	23年度 見込	24年度 見込	25年度 見込	23～25年度 合計
事業 の 財 源 内 訳	国庫支出金	名称	千円						0
	道支出金	名称	千円						0
	地方債	名称	千円						0
	その他	名称 受講負担金及び見学旅行参加負担金	千円	370	450	0	0	0	0
	一般財源	名称	千円	129	140	0	0	0	0
合 計				499	590	0	0	0	0
(参考) 上記事業を実施する上で 必要となる人件費			職 員	千円	2,644	2,770			
			嘱 託 員	千円	0	0			
			臨時職員	千円	0	0			
			合 計		2,644	2,770			

担当グループによる事務事業評価の内容

1. 事務事業の妥当性について			
今後市が事業主体として実施していくことは妥当ですか？	→	妥当である 妥当ではない	→ 妥当である理由、妥当ではない理由は何ですか？ ここ数年新入生の減少が続いている状況で、学習方式のあり方など考慮するにあたり、ときめき大学との統合を踏まえた中での抜本的な見直しを検討している。見直しで、新たな取組みを行う際、当初は市が主体となり、軌道に乗り始めたときに実行委員会等が主体で実施するのが望ましい。
2. 事務事業の成果について			
成果はあがっていますか？	→	成果があがっている どちらかといえばあがっている 成果があがらない	→ 成果があがっている理由、あがらない理由は何ですか？ 生涯学習の観点に立ち、生きがいのある人生観を確立するため、時代に応じた知識と教養を身につけ、親睦を図り、学習機会を得ることにより、多彩な能力を地域社会に貢献しているため、事業実施による効果は表れている。
3. 事務事業の成果向上について			
成果を向上させることはできますか？	→	大きく向上させることができる 少し向上させることができる 向上させることはできない	→ どのようにして向上させますか？ 向上させることができない理由は何ですか？ 今後に向けての事業のあり方を考慮し、多様化している市民の学習機会の要望を反映できるよう、新たな取組みを検討することにより、成果が向上するよう努める。
4. 事務事業の経済性・効率性について			
成果を落とさずにコスト（予算や人工、所要時間）を削減することはできますか？	→	削減できる 削減できない	→ どのような方法でコストを削減しますか？ 削減できない理由は何ですか？ どの程度の予算等経費が必要かは、今後検討するが、できる限りの削減を基本に取組みたい。

担当グループによる評価

改 善	左記の評価を選択した具体的な理由（根拠）	新入生の減少が続いていることを踏まえて、学習方式のあり方など考慮するにあたり、婦人短大との統合を踏まえた中での抜本的な見直しを検討している。NPOや企業との連携、地域の大学との連携も視野に入れ、現在各分野で実施している講座・教室等を活用しながら、道民カレッジなどを参考に新たな取組みを検討する必要がある。
-----	----------------------	--

総合的な評価（当該事務事業の方向性）

改 善	備考	担当グループの案通り改善を進めるべき。
-----	----	---------------------

評価の種類

- 拡大（事務事業の規模や経費を拡大し、これまで以上に強力に推進する事務事業）
- 維持（現状の対象や目指す姿、手段などに変更が無く、今後も実施する事務事業）
- 改善（現状の手段や経費などを見直し、成果指標の向上等を行う必要がある事務事業）
- 休止（暫定的に休止する事務事業）
- 終了（当初から決められていた事業期間が終了または成果品等が完成し、目的を果たした事務事業）
- 廃止（当該事務事業の予定を変更し、廃止する事務事業）